

「OPI テスターへの挑戦で学んだこと」

95 期 菊岡 由夏

OPI 試験官ワークショップ 95 期の一員として、OPI テスター資格取得に挑むことを通して、多くのことを学びました。ここに書くことは私の学びのほんの一部に過ぎませんが、その中でも特に強く感じたことを 2 つご紹介させていただきたいと思います。

①OPI テスター資格取得への道は学びの実感が得られる体験

OPI テスター資格取得は、本当に久しぶりに自分が「学んでいる」ことを心と体の両方で実感させていただく体験となりました。

OPI では、決められた方法に則ってインタビューを進めていくことで、相手の話す力を図ります。ただ話させればいいのかと言えば、もちろんそのようなことはなく、相手のパフォーマンスを、身近で基本的なものから、より高度で複雑なものへと移行するよう、テスターが導いて行かねばなりません。そのように導くための様々なポイント、スキルが OPI にはあり、それらはどれも客観的な根拠に基づいていると思われる「わかりやすい」ものでした。「なるほど、それは最もだなあ」「よし、早速試してみよう」と OPI のワークショップでの嶋田先生の熱い語りを聞きながら何度も心の中でうなずいたものです。

が、実際はそううまくはいかないのです。「相手の話に聞き入ってテスターとしてのパフォーマンスを逸脱してしまう」「気づいたら、同じような身近な話題ばかりをくり返し質問している」「事前にリハーサルをしておいた質問が、本番では微妙に変わってしまい、予想していた流れと全く違う方向に話題が流れていく」そして「その流れが修正できない」、あれほど頭では「わかる」気になっていたことが、実際には簡単に「できる」にはならないという経験を何度も何度もくり返しました。

もちろん、それだけに、「できた」を実感したときの達成感もひとしおでした。昨日できなかったことが、今日「できる」、テスターとしての「熟達」の階段を少しずつ少しずつ上っているという明確な実感が得られる、OPI テスター資格取得の道にはそんな学びの実感が得られる貴重な体験であったと思います。

②多くの人に支えられていることの再確認の機会

OPI テスター資格取得に挑むにあたって、実感させていただいたことのもう一つが自分の学びが本当に多くの人に支えられているということです。

まず、ワークショップの仲間には、OPI という共通のテーマをめぐるたくさんのディスカッションにお付き合いいただいたり、OPI がうまく行かないときに愚痴を聞いてもらったり、テスターまでの道のりを支える大きな力になってもらいました。もちろん、私たちがお互いを支え合える「仲間」になれたのも、そのような仲間作りができるように導いてくださった嶋田先生の素晴らしいコーディネートのおかげ

げであると思います。

また、それ以外にも自分を取り巻く方々のご協力なしにはテスト資格を取得することはできなかったと思います。少し現実的な話ですが、OPIの資格取得に際し苦勞することの一つに、OPIの実施に協力して下さるテスト探しがあります。様々なレベルのテストに適切なOPIを実施するまでには、何人も、いえ、何十人ものテストに協力してもらうことになります。それらに笑顔で協力してくれるテストがいなければOPIは成立しません。さらに、そのテストを見つけ出すこともやはりとうてい一人ではできませんでした。たくさんの方にテストの協力者をご紹介いただき、やっとのことですのですべてのレベルのOPIを実施することができました。

使い古された言い回しかもしれませんが、私という一人のテストができるまでには、本当に多くの人びとの力や支えが存在するのだということを深く感じさせていただく機会となりました。ご協力くださった皆様にこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。

先に書いたように、この2つは私が今回のテスト資格取得を通して感じた学びのほんの一角にすぎません。OPIテスト資格取得という取り組みは、その名の通り「OPIテスト資格を取得する」という明確な目標の下の、明確な活動ですが、そこから得られる学びは本当に多様で、どこまで広がるのか皆目想像もつかない大きな広がりのあるものでした。

それは言うならば、一つの目的に向かった仲間と協働しながらテストとしての熟達の道を目指しながらも、自分を取り巻くたくさんの人びととの交流を通して学びを拡張していく「現代の実践共同体」の姿をはっきりと見せてくれる、そんな営みではないかと思います。

日本語教師として新たな境地を開きたい、そのように思っている方がいらっしゃったら、ぜひOPIテスト資格取得という「現代の実践共同体」への参加をおすすめいたします。きっと自分の学びの熟達と拡張を実感できると思います。